

2023年3月期 決算説明会

2023年5月10日

富士フイルム ホールディングス株式会社

**NEVER
STOP**

FUJIFILM
Value from Innovation

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日のアジェンダ – 2023年3月期 決算説明会 –

2023年3月期

1 | **決算ハイライト及びVISION2023進捗状況**
富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤禎一**

2 | **連結業績及び事業概況**
富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2024年3月期

3 | **連結業績予想**
富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

01 2023年3月期 決算ハイライト及びVISION2023進捗状況

2023年3月期 決算ハイライト

2023年3月期 連結業績

ヘルスケア構成比
2008年3月期
10.1%
2023年3月期
32.1%

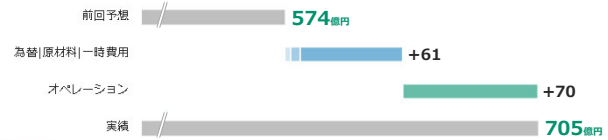


通期

- 好調なメディカルシステム、電子材料、ビジネスイノベーション、イメージング等が増収増益となり、売上高は、2008年3月期以来の過去最高を更新、営業利益は二期連続、当社株主帰属当期純利益は三期連続で最高益を更新。
- 2023年3月期の年間配当金は、好決算を踏まえ、前回予想から10円上乘せした130円/株(13期連続増配)を予定。

第4四半期(3ヶ月)

- 売上高、営業利益、当社株主帰属四半期純利益のいずれも、2/8に公表した予想値を上回り、第4四半期として過去最高を更新。



© FUJIFILM Holdings Corporation 4

2023年3月期の売上高は2兆8,590億円、営業利益は2,731億円、当社株主帰属当期純利益は2,194億円となりました。

売上高は2008年3月期以来の過去最高を更新、営業利益は二期連続、当社株主帰属当期純利益は三期連続で最高益を更新しました。

第4四半期3ヶ月の業績については、売上高、営業利益、当社株主帰属四半期純利益のいずれも、第4四半期として過去最高を更新しました。

2023年3月期 決算ハイライト 対前回予想(2023/2/8)

- ・ 売上高・利益は、VISION2023の目標を1年前倒して達成
- ・ ROE・ROICは、2023年3月期の目標を達成

	2023年3月期 前回予想(2/8)	2023年3月期 実績	対前回予想 差異	(参考) 2022年3月期 実績
売上高	2兆8,000億円	2兆8,590億円	達成率 102%	2兆5,258億円
営業利益	2,600億円	2,731億円	達成率 105%	2,297億円
当社株主帰属 当期純利益	2,000億円	2,194億円	達成率 110%	2,112億円
ROE	7.6%	8.3%	+ 0.7 pt	9.0%
ROIC	5.7%	6.1%	+ 0.4 pt	5.6%
為替レート 米ドル(USD)	135円	136円	1円安	113円
ユーロ(EUR)	141円	141円	-	131円

© FUJIFILM Holdings Corporation 5

2023年3月期の売上高と利益は、「VISION2023」の最終年度の目標を1年前倒して達成しました。

2023年3月期は、ウクライナ情勢や中国ロックダウンの影響などから、エネルギー価格の高騰や部材の需給逼迫と厳しい経営環境にありました。

その中で、部品調達に滞りなく対応し、販売価格の見直しを適切に実施した、メディカルシステム、ビジネスイノベーション、イメージングなどが計画を上回る業績をあげました。

半導体市場の成長は鈍化しましたが、先端半導体向けに強みをもつ当社の電子材料は終始好調でした。

一方、インフレによる急激な固定費の増加を吸収しきれなかったバイオCDMO、原料需給の逼迫が続いたライフサイエンスは、計画を下回りました。

これらの将来の柱となる事業に対して、成長投資を継続しながら、収益性の向上にもしっかり取り組みます。

また、コロナ特需の反動を受けたディスプレイ材料なども厳しい状況が続きましたが、会社全体では、為替影響も加え、総合力で計画を上回る好業績を収めることができました。

ROEとROICは、2023年3月期の目標を達成しました。

2024年3月期 連結業績予想ハイライト VISION2023進捗状況

- VISION2023最終年度の売上・利益目標を引き上げ、過去最高を更新
- ROE・ROICは、成長投資の拡大のため、VISION2023の目標未達

次期中期経営計画に向けて「稼げる力」の基盤強化に取り組む

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	対前年実績 差異	(参考) 2024年3月期 VISION2023
売上高	2兆8,590億円	2兆9,500億円	+ 3.2 %	2兆7,000億円
営業利益	2,731億円	2,900億円	+ 6.2 %	2,600億円
当社株主帰属 当期純利益	2,194億円	2,250億円	+ 2.5 %	2,000億円
ROE	8.3 %	8.0 %	- 0.3 pt	8.4 %
ROIC	6.1 %	5.9 %	- 0.2 pt	6.1 %
為替レート 米ドル(USD) ユーロ(EUR)	136円 141円	135円 145円	1円高 4円安	104円 124円

© FUJIFILM Holdings Corporation 6

2024年3月期連結決算の通期業績予想について説明します。

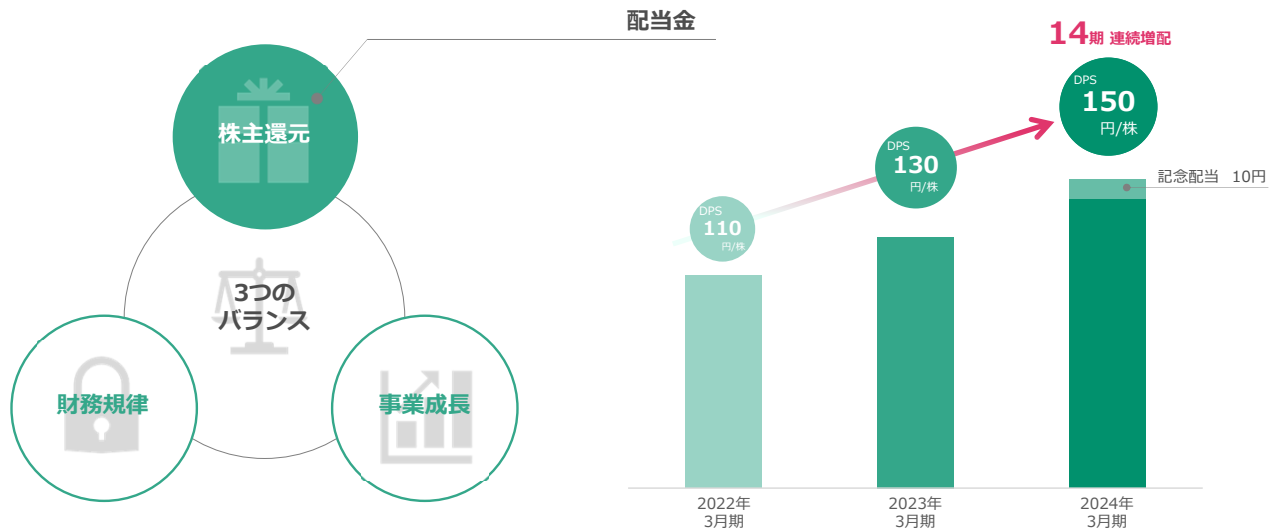
売上高は2兆9,500億円、営業利益は2,900億円、当社株主帰属当期純利益は2,250億円と、VISION2023の最終年度の目標を引き上げ、いずれも過去最高の更新を目指します。

一方で、VISION2023の策定時に想定した以上にバイオ医薬品や半導体関連の需要が強くなっており、成長機会を確実に捉えるべく、バイオCDMOや電子材料を中心とした成長投資を拡大することを決定しました。そのため、ROICは、VISION2023の目標に対して未達となる予定です。

当社は、ROICの向上を重要課題と位置づけ、2024年3月期は、「稼げる力」の基盤強化、すなわち成長領域への積極的な投資と各事業の収益力の強化に一層取り組み、次期中期経営計画での更なる成長加速に繋げていきます。

株主還元

- 2023年3月期の年間配当は、従来の年間配当予想の120円/株から10円増配の130円/株
- 2024年3月期の年間配当は、創立90周年の記念配当10円/株を含む150円/株



次に、株主還元についてご説明します。

2023年3月期の年間配当は、好決算を踏まえて、従来の年間配当予想の120円から10円増配の130円を予定します。

また、当社は2024年1月に創立90周年を迎えますが、2024年3月期の年間配当予想は、株主の皆様への日頃のご支援に感謝の意をこめて、1株当たり10円の記念配当を実施するとともに、普通配当を10円増配し、14期連続増配となる1株当たり150円を予定します。

今後も、事業成長および財務規律とのバランスを取りながら、安定的且つ継続的な配当を実施していきます。

2024年3月期 高機能材料の成長に向けた取り組み 1/2

電子材料

米国のEntegris社から半導体用プロセスケミカル*事業を700百万米ドルで買収し、電子材料事業の成長を一段と加速化
(Entegris社のグループ会社で、半導体用プロセスケミカル事業をグローバルに展開するCMC Materials KMG Corporationの全株式を取得)

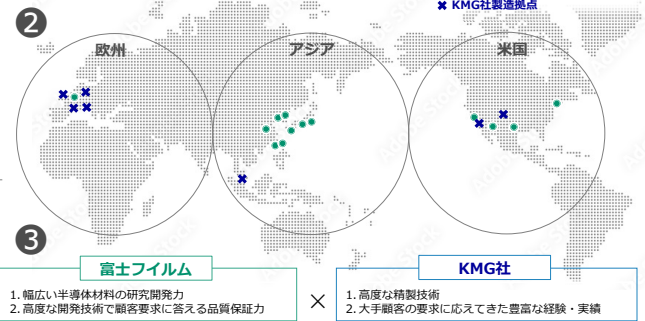
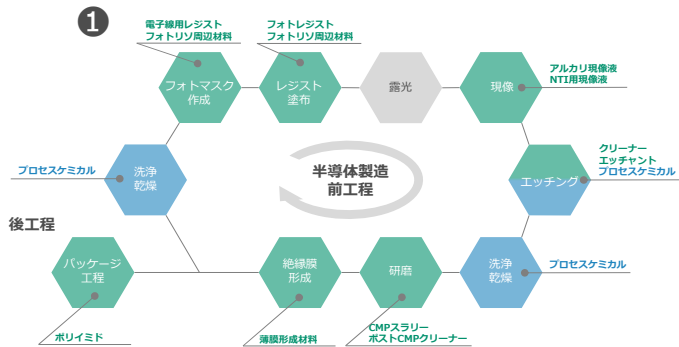
* 半導体用プロセスケミカル

半導体製造の洗浄・乾燥工程で異物を除去したり、エッチング工程にて金属や油脂などを取り除くために使用する化学薬品で、半導体製造プロセスの基幹製品

買収の狙い

- ① 製品ラインアップの拡充
- ② より強固なグローバル製造・供給体制の構築
- ③ 両社リソースを活用した製品開発

顧客の製造プロセスの課題解決
サプライチェーンの強靱化へ貢献
半導体の更なる高性能化に寄与



- | | | |
|--|---|---|
| 富士フイルム
1. 幅広い半導体材料の研究開発力
2. 高度な開発技術で顧客要求に答える品質保証力 | × | KMG社
1. 高度な精製技術
2. 大手顧客の要求に応えてきた豊富な経験・実績 |
|--|---|---|

© FUJIFILM Holdings Corporation 8

2024年3月期における高機能材料の成長に向けた取り組みについてお話しします。

当社子会社の富士フイルム株式会社が、米国の半導体材料メーカーであるEntegris.Incから、半導体用プロセスケミカル事業を7億ドルで買収することを決定しました。Entegris.Incのグループ会社で、半導体用プロセスケミカル事業をグローバルに展開するCMC Materials KMG Corporationの全株式を取得する株式売買契約を本日締結しました。

半導体用プロセスケミカルは、半導体製造プロセスの基幹製品の一つです。

半導体の微細化・多層化により製造プロセスが増加し、プロセスケミカルの使用量も加速的に増え、さらに高純度・高品質化の要求もますます高まることから、大きな市場成長が期待されています。

今回の買収の戦略的重要性は次の3つです。

まず1点目は、「製品ラインアップの拡充で半導体製造プロセスの幅広い工程をカバーできること」です。スライドに半導体の製造プロセスを示していますが、今回の買収により、「洗浄・乾燥工程」と「エッチング工程」に使用するプロセスケミカルが当社のラインアップに加わることで、半導体製造プロセスのより多くの工程に製品を提供することができます。

2点目は、「欧米での製造拠点の拡充と、東南アジアでの製造拠点の獲得」です。

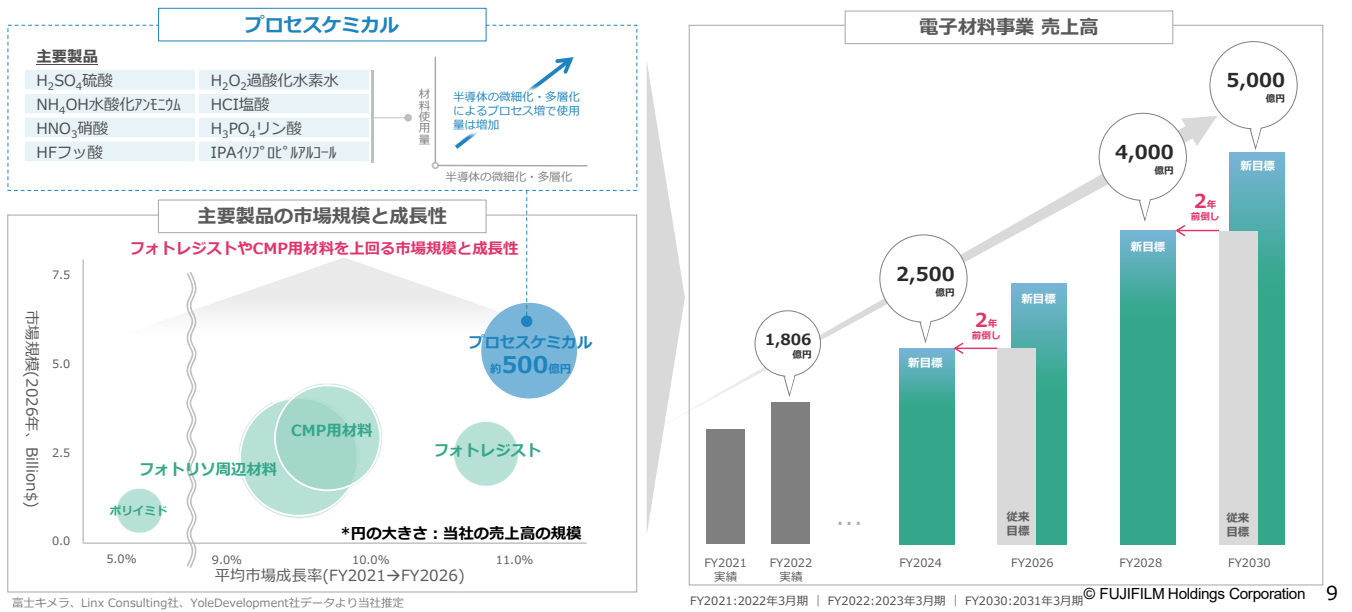
今回の買収により、欧米で6つの半導体材料の製造拠点と、当社電子材料事業で初の東南アジア拠点となるシンガポール拠点を獲得し、計7ヶ所の拠点を新たに加えることで、より強固なグローバル製造体制を構築することができます。

3点目は、「両社の技術などの総合力を活用して最先端ニーズに対応した半導体材料を開発・提供」することです。

当社の幅広い半導体材料の研究開発力や品質保証力と、買収会社の先進的な精製技術などを組み合わせて、最先端ニーズに対応した半導体材料を開発・提供し、半導体のさらなる高性能化に寄与していきます。

2024年3月期 高機能材料の成長に向けた取り組み 2/2

電子材料事業売上高目標(2026|2030年度)を2年前倒し、2030年度の事業売上高目標5,000億円へ

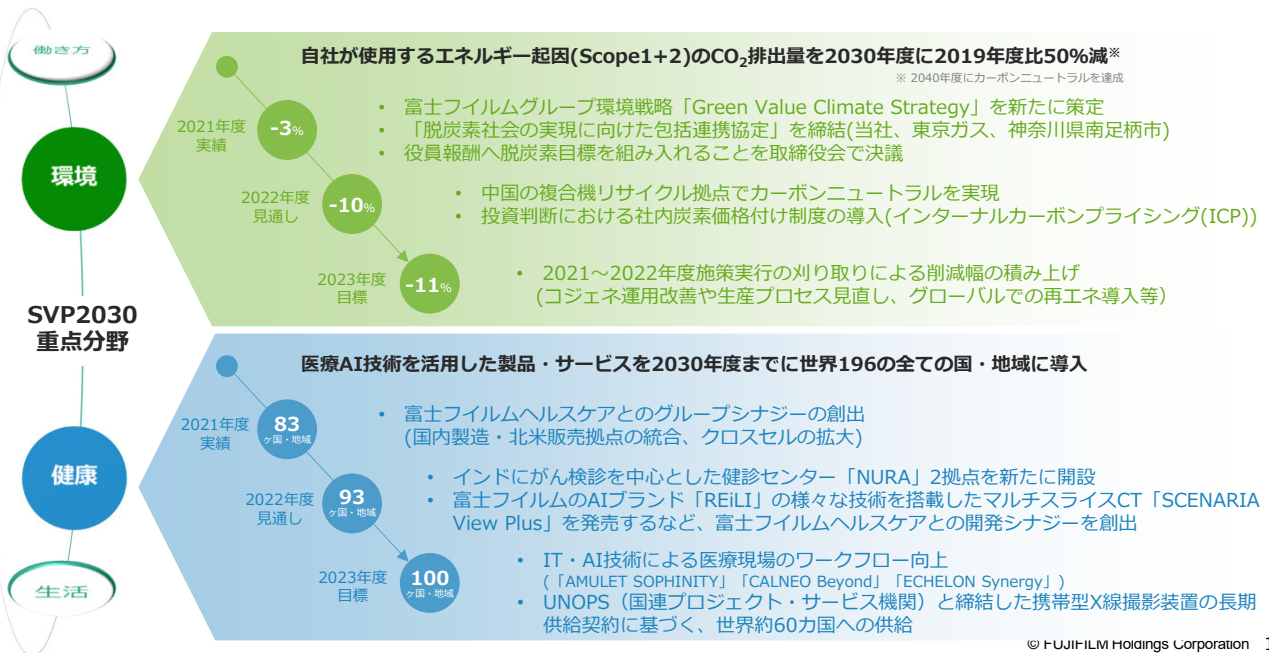


半導体の微細化・多層化により製造プロセスが増加している中、半導体用プロセスケミカルは、リソグラフィ材料やCMP材料を上回る市場規模と成長性が予想されています。

買収した事業の年間の売上は約500億円です。

当社電子材料事業の売上目標は、足元の業績好調、積極的な設備投資に加え、今回の半導体用プロセスケミカル事業の買収によって、成長をより加速させ、これまでの売上目標を2年前倒しで達成することを目指します。さらに2030年度の売上目標を従来の4,000億円から5,000億円に上方修正し、更なる事業成長を図っていきます。

2023年3月期 決算ハイライト サステナビリティへの取り組み



最後に、サステナビリティへの取り組みを紹介します。

当社は、2030年度をターゲットとする長期CSR計画「Sustainable Value Plan 2030」で、4つの重点分野を掲げています。その中で「環境」と「健康」における取り組みについてお話しします。

まず環境については、当社は、脱炭素社会の実現に向け、自社が使用するエネルギー起因のCO₂排出量、および自社製品のライフサイクル全体のCO₂排出量において、いずれも2030年度までに2019年度比で50%削減することを目標としています。

そのマイルストーンとして、自社が使用するエネルギー起因のCO₂排出量について、2023年度までに11%の削減を目指しています。

2022年度は、中国の複合機リサイクル拠点でカーボンニュートラルを実現したり、投資判断にインターナルカーボンプライシングを導入するなどの施策をうち、暫定値ではありますが10%の削減を達成しており、目標に向けて順調に遂行しています。

また、健康については、医療AI技術を活用した製品・サービスを2030年度までに世界196の全ての国・地域に導入する目標に対して、2022年度までで93の国・地域に導入し、2023年度には100の国・地域に到達する予定で、順調に拡大を進めています。

当社は今後も、「環境」「健康」に「生活」と「働き方」を加えた4つの重点分野と、事業活動の基盤となる「サプライチェーン」と「ガバナンス」の全ての面から、サステナブル社会の実現に向けた取り組みを積極的に行っていきます。

私からの説明は以上です。

02 2023年3月期 連結業績及び事業概況

2023年3月期 業績 (2022年4月～2023年3月)

(単位：億円)

	通期				
	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	25,258 100.0%	28,590 100.0%	3,332 +13.2%	2,273	1,059 +4.2%
営業利益	2,297 9.1%	2,731 9.6%	434 +18.9%	406	28 +1.2%
税金等調整前当期純利益	2,604 10.3%	2,822 9.9%	218 +8.4%	326	-108 -4.2%
当社株主帰属当期純利益	2,112 8.4%	2,194 7.7%	82 +3.9%	226	-144 -6.8%
1株当たり当社株主帰属 当期純利益	527.33円	547.21円	19.88円		
ROE	9.0%	8.3%	-0.7%		
ROIC	5.6%	6.1%	+0.5%		
為替 : 米ドル	113円	136円	23円安		
: ユーロ	131円	141円	10円安		

<その他増減要因 (対前年度)>
 営業利益における
 原材料価格影響： -170億円
 (半導体等の部材価格は含まず)

2023年3月期の業績は、

売上高は、全セグメントで増収を達成し、前年比13.2%増の2兆8,590億円となりました。

営業利益は、ヘルスケアとマテリアルズでの前年度のコロナ関連特需の減少や、部材・エネルギーコストの上昇などの影響を受けた中でも、増収に伴う増益と為替影響などで前年比18.9%増の2,731億円となりました。

当社株主帰属当期純利益は、過去最高の営業利益が寄与し、前年比3.9%増の2,194億円となりました。

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位: 億円)

売上高	通期		対前年度		為替影響除く	
	2022年 3月期	2023年 3月期				
ヘルスケア	8,017	9,179	1,162	+14.5%	310	+3.9%
マテリアルズ	6,308	6,927	619	+9.8%	4	+0.1%
ビジネスイノベーション	7,599	8,381	782	+10.3%	403	+5.3%
イメージング	3,334	4,103	769	+23.1%	342	+10.3%
合計	25,258	28,590	3,332	+13.2%	1,059	+4.2%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益	通期		対前年度		為替影響除く	
	2022年 3月期	2023年 3月期				
ヘルスケア	1,005	1,005	0	0.0%	-194	-19.3%
マテリアルズ	684	677	-7	-1.0%	-183	-26.6%
ビジネスイノベーション	579	695	116	+20.0%	212	+36.5%
イメージング	370	729	359	+97.1%	220	+59.5%
全社/連結調整	-341	-375	-34	-	-27	-
合計	2,297	2,731	434	+18.9%	28	+1.2%

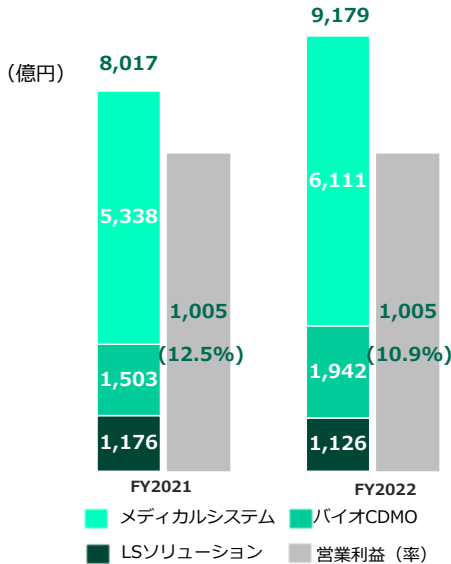
※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 13

セグメント別の売上・利益はご覧の通りです。

セグメント別概況：ヘルスケア

メディカルシステム、バイオCDMOの増収により、売上高は対前年+14.5%で増収、前年のコロナ関連需要の一巡により、営業利益は対前年横ばいで着地。



メディカルシステム

売上高 6,111億円 (対前年+14.5%)

- ・ 内視鏡、医療IT、超音波診断などの販売が好調に推移し、増収。
- ・ 医療ITでは、医用画像情報システム (PACS) 「SYNAPSE」や3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売が好調。加えて、デジタル病理診断用ソフトウェア等の開発・販売を行っているInspirata社のデジタル病理部門買収も寄与し、増収。

バイオCDMO

売上高 1,942億円 (対前年+29.2%)

- ・ バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託がデンマーク拠点で堅調に推移したことや、為替影響などにより、増収。
- ・ FDBU/FDBT(米国)*1およびFDBK(英国)*2の完全子会社化を決定。経営基盤を強化し、バイオ医薬品の開発・製造受託事業の成長を一段と加速化。

*1 FDBU: FUJIFILM Diosynth Biotechnologies U.S.A., Inc.

*2 FDBK: FUJIFILM Diosynth Biotechnologies UK Limited

FDBT: FUJIFILM Diosynth Biotechnologies Texas, LLC

LSソリューション

売上高 1,126億円 (対前年-4.3%)

- ・ ライフサイエンスは、バイオ医薬品製造用培地でコロナ関連特需が一巡した影響を、試薬・細胞が伸長してカバーしたことや、為替影響などにより、増収。
- ・ 医薬品は、2022年3月に完了した放射性医薬品事業の譲渡により、減収。

※LSソリューション：ライフサイエンス事業（細胞・培地・試薬）、医薬品事業、コンピューティング事業（化粧品・サプリメント）から構成される開示セグメント

© FUJIFILM Holdings Corporation 14

ヘルスケアの業績の概要を説明します。

メディカルシステム、バイオCDMOの増収により、売上高は、前年比14.5%増の9,179億円、営業利益は、好調のメディカルシステムが増益となりましたが、前年度のコロナ関連需要が一巡したバイオCDMOとライフサイエンスが減益となり、全体で、前年比横ばいの1,005億円となりました。

メディカルシステムは、内視鏡、医療IT、超音波診断などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

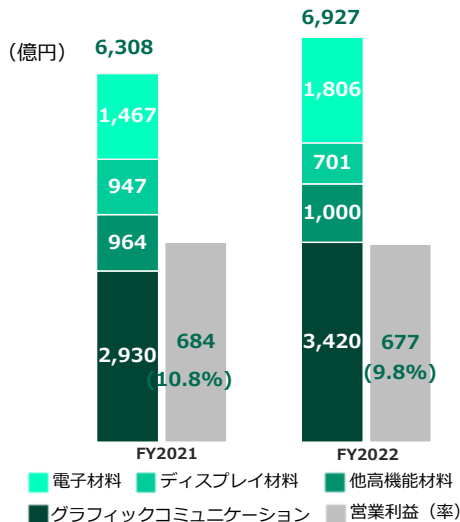
医療ITでは、医用画像情報システム (PACS) 「SYNAPSE」や3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売が好調に推移しました。加えて、デジタル病理診断用ソフトウェア等の開発・販売を行っているInspirata社のデジタル病理部門を買収したことも、増収に寄与しました。

バイオCDMOは、デンマーク拠点の製造受託が堅調に推移したことや為替影響などにより、増収となりました。本年3月に米国と英国にある事業子会社の完全子会社化を決定しました。バイオCDMO事業の経営基盤を強化し、バイオ医薬品の開発・製造受託事業の成長を一段と加速していきます。

LSソリューションは、ライフサイエンスで、バイオ医薬品製造用培地のコロナ関連特需が一巡した影響を、試薬・細胞が伸長したことでカバーしましたが、医薬品で2022年3月に完了した放射性医薬品事業の売却が影響し、減収となりました。

セグメント別概況：マテリアルズ

電子材料、グラフィックコミュニケーションの増収などにより、売上高は対前年+9.8%で増収、営業利益はデバイス需要減少の影響を受け、対前年-1.0%の減益で着地。



電子材料 売上高 1,806億円 (対前年+23.1%)

- 先端半導体需要の増加に伴い、CMPスラリーやポストCMPクリーナー、ポリイミドなどの製品群で販売が好調に推移し、増収。

ディスプレイ材料 売上高 701億円 (対前年-25.9%)

- 前年にCOVID-19の流行下でモニター、タブレット及びTV需要が増加したことへの反動や、サプライチェーン全体での生産調整の影響を受け、減収。

他高機能材料 売上高 1,000億円 (対前年+3.8%)

- 産業機材で、中国・インドを中心にオイルガス業界向けの非破壊検査機器・材料の販売が好調に推移し、増収。

グラフィックコミュニケーション 売上高 3,420億円 (対前年+16.7%)

- グラフィックコミュニケーションでは、刷版材料分野で販売価格の見直しを実施したことに加え、デジタル印刷分野で、プロダクションプリンターの欧米向け出荷が市況回復に伴い伸長したことなどにより、増収。
- インクジェットでは、ラベル市場向けインクジェットヘッドの販売が伸長したことなどにより、増収。

※ 他高機能材料：産業機材事業、ファインケミカル事業、記録メディア事業から構成される開示セグメント

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスソリューション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 15

マテリアルズの業績の概要を説明します。

電子材料やグラフィックコミュニケーションの増収などにより、売上高は、前年比9.8%増の6,927億円、営業利益は、電子材料やグラフィックコミュニケーションは増益しましたが、デバイス需要の減少影響を大きく受けたディスプレイ材料などが減益し、前年比1.0%減の677億円となりました。

電子材料は、CMPスラリーやポストCMPクリーナー、ポリイミドなどの製品の販売が先端半導体向けを中心に好調に推移し、売上が増加しました。

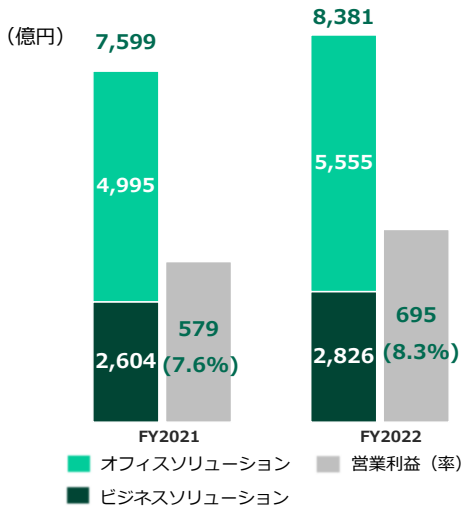
ディスプレイ材料は、前年度にCOVID-19の流行下でモニター、タブレット、TV需要が増加したことへの反動や、サプライチェーン全体での生産調整の影響を受け、売上が減少しました。

グラフィックコミュニケーションは、刷版材料分野において原材料価格の高騰に伴い販売価格を見直し、また、デジタル印刷分野が、プロダクションプリンターの欧米向け出荷の市況回復により伸長し、売上が増加しました。

インクジェットは、ラベル市場向けインクジェットヘッドの販売が伸長したことなどにより、売上が増加しました。

セグメント別概況：ビジネスイノベーション

オフィスソリューション及びビジネスソリューションともに販売が増加し、売上高は対前年+10.3%、営業利益は対前年+20.0%と増収・増益で着地。



オフィスソリューション 売上高 5,555億円 (対前年+11.2%)

- 中国ロックダウンの影響を受けるも、国内販売及び欧米向け輸出が好調に推移したことに加え、東南アジアの売上回復が寄与し、増収。
- 2023年2月に、様々なクラウドサービスとの連携や、コンパクトなサイズで設置場所の自由度を向上させたデジタルカラー複合機「Apeos C4030 / Apeos C3530」とデジタルモノクロ複合機「Apeos 5330」の3機種、及び当社が販売するA4デジタルカラー・モノクロの複合機・プリンターラインアップで最小・最軽量モデルとなる「ApeosPort / ApeosPort Print」6機種を発売。

ビジネスソリューション 売上高 2,826 億円 (対前年+8.5%)

- 国内でソリューション売上や自治体向け売上が増加したことや、海外でのBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）事業の伸長などにより、増収。
- 2023年3月に、中堅・中小企業のDX課題解決を支援するソリューション「Bridge DX Library」のラインアップを、4業種103種類から6業種146種類へと拡大。また、Microsoft Dynamics365を主とした基幹システムの販売・導入支援事業のさらなる成長加速に向けて、豪州ITサービス企業MicroChannel Servicesを買収。

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業等の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリセットしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 16

ビジネスイノベーションの業績の概要を説明します。

オフィスソリューション及びビジネスソリューションともに販売が増加し、売上高は、前年比10.3%増の8,381億円、営業利益は、前年比20.0%増と大幅に増益し、695億円となりました。

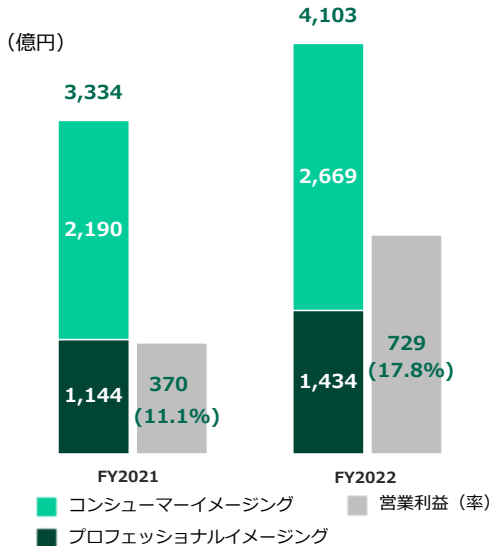
オフィスソリューションは、特に第一四半期に中国ロックダウンの影響を受けましたが、国内販売及び欧米向け輸出が好調に推移したことに加え、東南アジアの売上回復が寄与し、増収となりました。

ビジネスソリューションは、国内でソリューション売上や自治体向け売上が増加したことや、海外でのBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）事業の伸長などにより、増収となりました。

本年3月に、中堅・中小企業のDX課題解決を支援するソリューション「Bridge DX Library」のラインアップを、4業種103種類から6業種146種類へと拡大しました。また、Microsoft Dynamics365を主とした基幹システムの販売・導入支援事業のさらなる成長加速に向けて、豪州ITサービス企業MicroChannel Servicesを買収しました。

セグメント別概況：イメージング

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高対前年+23.1%、営業利益対前年+97.1%と増収・増益で着地。



コンシューマーイメージング

売上高 2,669億円 (対前年+21.9%)

- ・ インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、増収。
- ・ 2023年3月に、INSTAX“チェキ”の最新エントリーモデル「INSTAX mini 12」を発売。また、チェキプリントをデジタル化してスマホで楽しむことができるスマートフォン用アプリ「INSTAX UP！」の提供を開始。

プロフェッショナルイメージング

売上高 1,434億円 (対前年+25.4%)

- ・ デジタルカメラは、「Xシリーズ」で、第5世代となる最新デバイスを搭載した新製品「X-H2S」、「X-H2」、「X-T5」の販売が好調に推移し、増収。
- ・ 放送・シネマ用レンズは、2023年3月に、4Kを超える光学性能を有し、2つの大型センサーに対応するデュアルフォーマット方式を採用した箱型タイプの放送用ズームレンズ「FUJINON HZK25-1000mm」の販売を開始。

© FUJIFILM Holdings Corporation 17

イメージングの業績の概要を説明します。

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高は、前年比23.1%増の4,103億円、営業利益は、前年比97.1%増と大きく増益し、729億円となりました。

コンシューマーイメージングでは、インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調で、売上が増加しました。インスタントフォトシステムは、2023年3月に、INSTAX“チェキ”の最新エントリーモデル「INSTAX mini 12」を発売しました。また、チェキプリントをデジタル化してスマホで楽しむことができるスマートフォン用アプリ「INSTAX UP！」の提供も開始しています。

プロフェッショナルイメージングでは、「Xシリーズ」で、第5世代となる最新デバイスを搭載した新製品「X-H2S」、「X-H2」、「X-T5」の販売が好調に推移し、増収となりました。

連結貸借対照表

(単位：億円)									
	21年 3月期末	22年 3月期末	23年 3月期末	対22年 3月期末		21年 3月期末	22年 3月期末	23年 3月期末	対22年 3月期末
現金及び現金同等物	3,948	4,863	2,686	-2,177	長短社債及び借入金	5,030	4,472	3,762	-710
受取債権	6,057	5,986	6,331	345	支払債務	2,399	3,032	3,204	172
棚卸資産	4,177	5,045	5,673	628	その他流動・固定負債	5,841	6,800	6,498	-302
その他流動資産	892	1,353	1,621	268	負債計	13,270	14,304	13,464	-840
流動資産計	15,074	17,247	16,311	-936	株主資本計	22,046	25,027	27,631	2,604
有形固定資産	6,353	7,368	9,761	2,393	非支配持分	176	222	248	26
営業種	8,042	8,240	8,583	343	純資産計	22,222	25,249	27,879	2,630
その他固定資産	6,023	6,698	6,688	-10	負債・純資産合計	35,492	39,553	41,343	1,790
固定資産計	20,418	22,306	25,032	2,726	(単位：円)				
資産合計	35,492	39,553	41,343	1,790	期末日 為替レート	21年 3月期末	22年 3月期末	23年 3月期末	対22年 3月期末
					米ドル	111	122	134	12円安
					ユーロ	130	137	146	9円安

© FUJIFILM Holdings Corporation 18

バランスシートについて説明します。

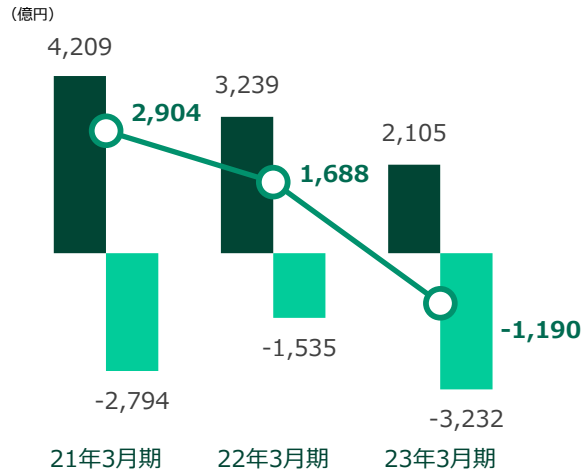
2023年3月期末時点の資産合計は、有形固定資産や棚卸資産の増加などにより、2022年3月期末時点と比べ、1,790億円増の4兆1,343億円となりました。

負債は、840億円減の1兆3,464億円となりました。

株主資本は2,604億円増の2兆7,631億円となりました。

連結キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- 事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー



(単位: 億円)

	21年3月期	22年3月期	23年3月期
当期純利益	1,835	2,164	2,217
減価償却費	1,234	1,330	1,422
受取債権の増(-)減(+)	206	347	-171
棚卸資産の増(-)減(+)	92	-683	-515
営業債務の増(+)-減(-)	-97	210	-92
その他	939	-129	-756
営業活動によるCF	4,209	3,239	2,105
設備投資	-1,001	-1,261	-2,698
ソフトウェアの購入	-255	-399	-536
投資有価証券の売却・購入等	246	123	350
事業買収	-1,735	-107	-287
その他	-49	109	-61
投資活動によるCF	-2,794	-1,535	-3,232
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	1,415	1,704	-1,127
事業買収等を除くFCF※	2,904	1,688	-1,190

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、第4四半期の販売好調による期末受取債権の増加などによって、前年より1,134億円減少し、2,105億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、バイオCDMOを中心とする設備投資の拡大などにより、前年より1,697億円増加し、3,232億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、1,190億円の支出となりました。

2023年3月期決算の説明は以上です。

03 2024年3月期 連結業績予想

2024年3月期 通期連結業績予想

(単位：億円)

	2023年3月期	2024年3月期	対前年度
売上高	28,590 100%	29,500 100%	910 +3.2%
営業利益	2,731 9.6%	2,900 9.8%	169 +6.2%
税金等調整前当期純利益	2,822 9.9%	2,950 10.0%	128 +4.5%
当社株主帰属当期純利益	2,194 7.7%	2,250 7.6%	56 +2.5%
1株当たり当社株主帰属当期純利益 ^(※)	547.21円	560.96円	+13.75円
ROE	8.3%	8.0%	-0.3%
ROIC	6.1%	5.9%	-0.2%
CCC	125日	111日	-14日
為替 ：米ドル	136円	135円	1円高
：ユーロ	141円	145円	4円安
銀価格 (/kg)	93,000円	106,000円	+13,000円

※ 1株当たり当社株主帰属当期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2023年3月31日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 21

2024年3月期の通期連結業績予想は、冒頭に後藤からお伝えしました通り、売上高は前年比3.2%増の2兆9,500億円、営業利益は前年比6.2%増の2,900億円、当社株主帰属当期純利益は前年比2.5%増の2,250億円と、VISION2023の最終年度の目標を引き上げ、いずれも前年度を上回る過去最高の更新を目指します。

セグメント別業績予想

(単位：億円)

	売上高	2023年3月期	2024年3月期	対前年度		為替影響除く	
※	ヘルスケア	9,179	9,700	521	+5.7%	546	+5.9%
	マテリアルズ	6,927	7,150	223	+3.2%	243	+3.5%
	ビジネスイノベーション	8,381	8,450	69	+0.8%	99	+1.2%
	イメージング	4,103	4,200	97	+2.4%	107	+2.6%
	合計	28,590	29,500	910	+3.2%	995	+3.5%

(単位：億円)

	営業利益	2023年3月期	2024年3月期	対前年度		為替影響除く	
※	ヘルスケア	1,005	1,160	155	+15.4%	152	+15.1%
	マテリアルズ	677	630	-47	-7.0%	-42	-6.2%
	ビジネスイノベーション	695	750	55	+7.9%	55	+7.9%
	イメージング	729	750	21	+2.9%	14	+1.9%
	全社/連結調整	-375	-390	-15	-	-15	-
	合計	2,731	2,900	169	+6.2%	164	+6.0%

※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」のセグメントに組み替えて表示しています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 22

セグメント別業績予想はご覧の通りです。

ヘルスケアは、メディカルシステムやライフサイエンスの伸長により、増収・増益です。

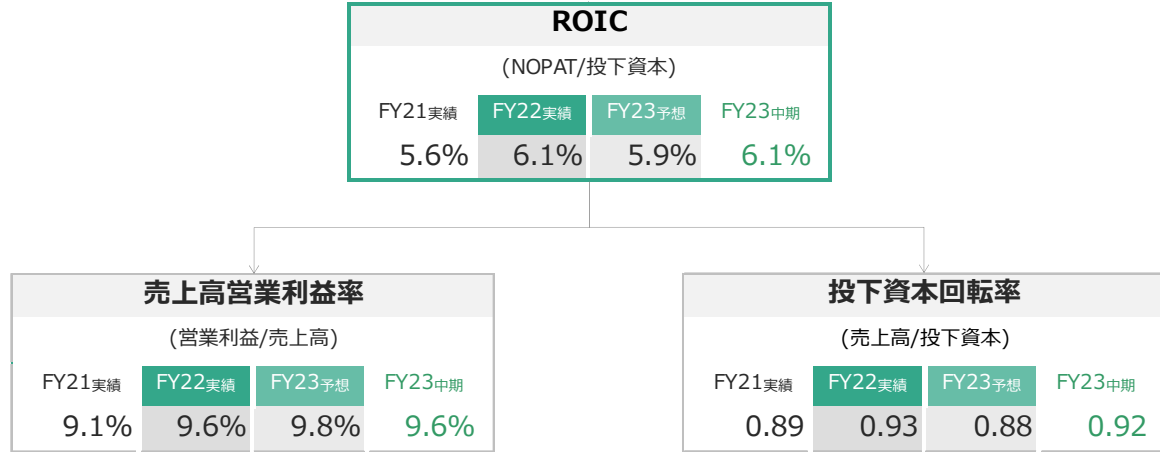
マテリアルズは、電子材料が引き続き伸長しますが、エネルギーコストの増加やグラフィックコミュニケーションで前期に資産売却益を計上したことなどにより、増収・減益です。

ビジネスイノベーションは、売上は前年度と同等、営業利益はコスト構造改革の効果により、増益を計画します。

イメージングは、インスタントフォトシステムとデジタルカメラが好調を維持し、増収・増益です。

ROIC(投下資本利益率) 1/3

2023年3月期は、前年比0.5pt良化するも、2024年3月期は低下し、VISION2023目標値を下回る着地予想。
 → 製品の安定供給を優先とした棚卸資産の確保と、追加大型設備投資の決定が主因



FY21:2022年3月期 | FY22:2023年3月期 | FY23:2024年3月期

© FUJIFILM Holdings Corporation 23

VISION2023で重要な経営指標に位置づけたROICについて説明します。

2023年3月期のROICは、営業利益率の向上により、前年比0.5ポイントプラスの6.1%となりました。

2024年3月期のROICは、営業利益率はさらに向上しますが、設備投資を拡大することによって投下資本回転率が下がるため、前年比0.2ポイントマイナスとなる5.9%を計画します。これはVISION2023における目標値6.1%を下回る計画となります。

ROIC(投下資本利益率) 2/3

ROIC*

	FY21実績	FY22実績	FY23予想	FY23中期
ヘルスケア	6.3%	4.3%	4.6%	5.3%
マテリアルズ	9.8%	8.5%	6.9%	12.9%
ビジネスイノベーション	6.8%	7.8%	7.9%	10.6%
イメージング	16.5%	30.3%	31.9%	12.1%

*セグメント別ROIC = NOPAT / (運転資本 + 固定資産)

売上高営業利益率

	FY21実績	FY22実績	FY23予想	FY23中期
ヘルスケア	12.5%	10.9%	12.0%	12.0%
マテリアルズ	10.8%	9.8%	8.8%	13.2%
ビジネスイノベーション	7.6%	8.3%	8.9%	10.0%
イメージング	11.1%	17.8%	17.9%	8.3%

投下資本回転率

	FY21実績	FY22実績	FY23予想	FY23中期
ヘルスケア	0.73	0.65	0.55	0.64
マテリアルズ	1.35	1.32	1.13	1.55
ビジネスイノベーション	1.24	1.31	1.30	1.40
イメージング	2.16	2.47	2.59	2.11

👉 設備投資について(次ページ)

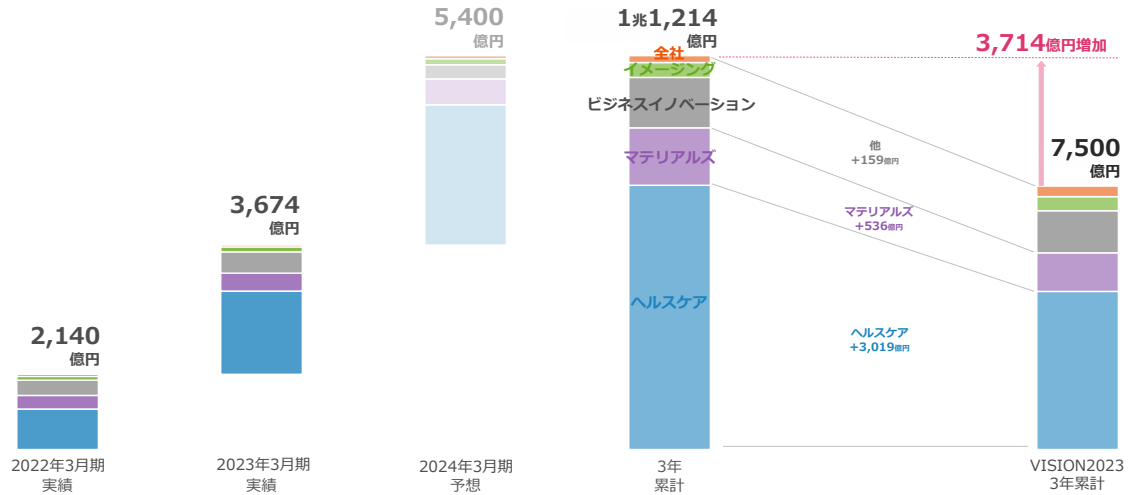
セグメント別のROICはご覧の通りです。

ヘルスケアとマテリアルズの2023年3月期のROICは、前年度より低下し、2024年3月期のROICは、VISION2023の目標に対して未達となる予定です。

これは、両セグメントで設備投資を当初計画より拡大していることが主な要因です。

ROIC(投下資本利益率) 3/3

設備投資(有形 | ソフト | レンタル資産含む)



© FUJIFILM Holdings Corporation 25

設備投資計画について説明します。

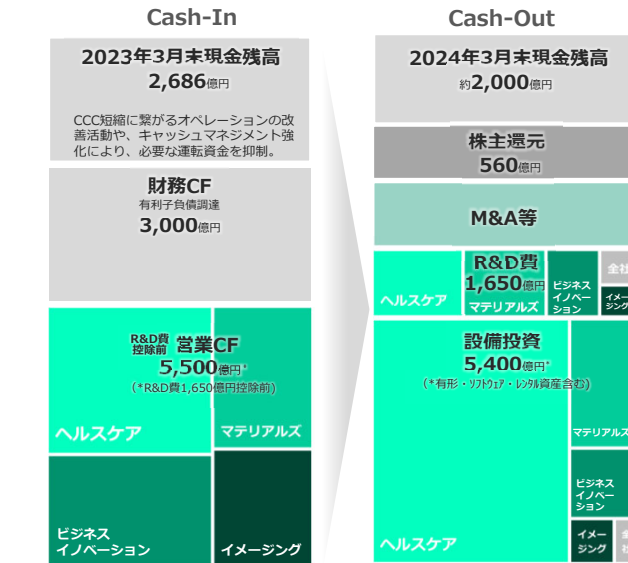
VISION2023における3年間総額の設備投資計画は7,500億円でしたが、投資金額を増額し、2024年3月期までに約1兆1,200億円の設備投資を実施する予定です。

バイオ医薬品市場や半導体市場はVISION2023の策定時の想定を上回るスピードで成長しています。旺盛な需要を確実に取り込むために追加の大型設備投資を決定しました。

大型の新設備等を着実に立ち上げて早期の収益貢献を図り、次期中期経営計画に向けて一層の業績拡大を目指します。

2024年3月期 キャッシュアロケーション

ポートフォリオマネジメントの強化により営業キャッシュフローを最大化し、財務健全性を維持しながら、ヘルスケア・高機能材料を中心とする成長投資を継続する。



© FUJIFILM Holdings Corporation 26

2024年3月期のキャッシュアロケーションを説明します。

左側のボックスはキャッシュインを表し、有利子負債の調達で3,000億円、営業活動による資金創出で5,500億円のキャッシュインを計画します。

右側のボックスは資金の使途を表し、「設備投資」で5,400億円、「研究開発費」で1,650億円を計画します。

セグメントのボックスの大きさは、キャッシュイン・キャッシュアウトの金額の大きさを示していますが、「収益基盤」事業と位置づけたビジネスイノベーションとイメージングで創出したキャッシュを、「新規/将来性・重点」事業のヘルスケアと高機能材料へ優先的に配分します。

また、株主還元として、総額約560億円の配当金を計画します。

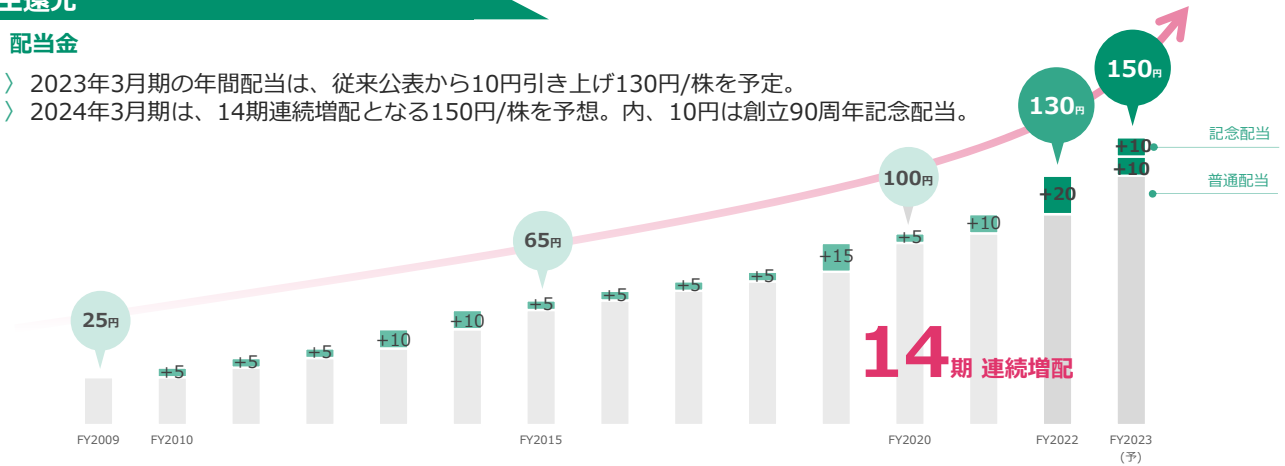
事業ポートフォリオマネジメントの強化により営業キャッシュフローを最大化し、財務健全性を維持しながら、ヘルスケア・高機能材料を中心とする成長投資を継続していきます。

株主還元

株主還元

■ 配当金

- 2023年3月期の年間配当は、従来公表から10円引き上げ130円/株を予定。
- 2024年3月期は、14期連続増配となる150円/株を予想。内、10円は創立90周年記念配当。



■ 自己株式

- 2023年3月期に自己株式(消却前発行済株式総数の19.4%にあたる1億株)の消却を実施。
- 取得については、キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施する。

2023年3月期の年間配当は、前回お伝えした配当予想から10円増配し、1株当たり130円を予定します。

また、2024年3月期の年間配当予想は、創立90周年記念配当10円を含む、14期連続増配となる1株当たり150円を予定します。

04 2023年3月期 決算 参考資料

4Q | 通期業績

(単位：億円)

	4Q					通期				
	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	6,649 100.0%	7,647 100.0%	998 +15.0%	443	555 +8.4%	25,258 100.0%	28,590 100.0%	3,332 +13.2%	2,273	1,059 +4.2%
営業利益	432 6.5%	705 9.2%	273 +62.9%	44	229 +52.7%	2,297 9.1%	2,731 9.6%	434 +18.9%	406	28 +1.2%
税金等調整前当期純利益	532 8.0%	774 10.1%	242 +45.5%	1	241 +45.3%	2,604 10.3%	2,822 9.9%	218 +8.4%	326	-108 -4.2%
当社株主帰属当期純利益	541 8.1%	657 8.6%	116 +21.5%	1	115 +21.3%	2,112 8.4%	2,194 7.7%	82 +3.9%	226	-144 -6.8%
為替	：米ドル ：ユーロ	116円 130円	132円 142円	16円安 12円安		113円 131円	136円 141円	23円安 10円安		

<その他増減要因 (4Q/通期 対前年度)>

営業利益における原材料価格影響： -19億円/-170億円

4Q | 通期 業績 : セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位: 億円)

売上高	4Q						通期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度	為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度	為替影響除く			
ヘルスケア	2,250	2,841	591 +26.3%	383	+17.0%	8,017	9,179	1,162 +14.5%	310	+3.9%		
マテリアルズ	1,635	1,700	65 +4.1%	-41	-2.4%	6,308	6,927	619 +9.8%	4	+0.1%		
ビジネスイノベーション	2,032	2,240	208 +10.2%	135	+6.6%	7,599	8,381	782 +10.3%	403	+5.3%		
イメージング	732	866	134 +18.2%	78	+10.6%	3,334	4,103	769 +23.1%	342	+10.3%		
合計	6,649	7,647	998 +15.0%	555	+8.4%	25,258	28,590	3,332 +13.2%	1,059	+4.2%		

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度	為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度	為替影響除く			
ヘルスケア	252 [11.2%]	399 [14.0%]	147 +58.1%	113	+44.7%	1,005 [12.5%]	1,005 [10.9%]	0 0.0%	-194	-19.3%		
マテリアルズ	102 [6.2%]	82 [4.8%]	-20 -19.4%	-33	-32.0%	684 [10.8%]	677 [9.8%]	-7 -1.0%	-183	-26.6%		
ビジネスイノベーション	160 [7.9%]	217 [9.7%]	57 +35.1%	66	+40.4%	579 [7.6%]	695 [8.3%]	116 +20.0%	212	+36.5%		
イメージング	23 [3.1%]	102 [11.7%]	79 4.5倍	71	4.1倍	370 [11.1%]	729 [17.8%]	359 +97.1%	220	+59.5%		
全社/連結調整	-105	-95	10	-	-	-341	-375	-34	-	-27		
合計	432 [6.5%]	705 [9.2%]	273 +62.9%	229	+52.7%	2,297 [9.1%]	2,731 [9.6%]	434 +18.9%	28	+1.2%		

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリセットしています。

4Q | 通期 業績 : ヘルスケア

(単位: 億円)

売上高	4Q						通期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
メディカルシステム	1,542	1,761	219	+14.2%	126	+8.2%	5,338	6,111	773	+14.5%	296	+5.6%
バイオCDMO	417	694	277	+66.5%	197	+47.2%	1,503	1,942	439	+29.2%	152	+10.1%
LSソリューション	291	386	95	+32.8%	60	+20.7%	1,176	1,126	-50	-4.3%	-138	-11.7%
合計	2,250	2,841	591	+26.3%	383	+17.0%	8,017	9,179	1,162	+14.5%	310	+3.9%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	252 [11.2%]	399 [14.0%]	147	+58.1%	113	+44.7%	1,005 [12.5%]	1,005 [10.9%]	0	0.0%	-194	-19.3%

4Q | 通期 業績 : マテリアルズ

(単位 : 億円)

売上高	4Q						通期					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
電子材料	397	411	14	+3.6%	-23	-5.9%	1,467	1,806	339	+23.1%	92	+6.3%
ディスプレイ材料	206	142	-64	-31.0%	-64	-31.0%	947	701	-246	-25.9%	-246	-26.0%
他高機能材料	237	264	27	+11.7%	13	+5.7%	964	1,000	36	+3.8%	-50	-5.2%
グラフィックコミュニケーション	795	883	88	+11.2%	33	+4.4%	2,930	3,420	490	+16.7%	208	+7.1%
合計	1,635	1,700	65	+4.1%	-41	-2.4%	6,308	6,927	619	+9.8%	4	+0.1%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
マテリアルズ	102 [6.2%]	82 [4.8%]	-20	-19.4%	-33	-32.0%	684 [10.8%]	677 [9.8%]	-7	-1.0%	-183	-26.6%

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリセットしています。

4Q | 通期 業績 : ビジネスイノベーション

(単位: 億円)

売上高	4Q						通期					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
オフィスソリューション	1,262	1,401	139	+10.9%	82	+6.4%	4,995	5,555	560	+11.2%	275	+5.5%
ビジネスソリューション	770	839	69	+9.0%	53	+6.9%	2,604	2,826	222	+8.5%	128	+4.9%
合計	2,032	2,240	208	+10.2%	135	+6.6%	7,599	8,381	782	+10.3%	403	+5.3%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q						通期					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
ビジネスイノベーション	160	217	57	+35.1%	66	+40.4%	579	695	116	+20.0%	212	+36.5%
	[7.9%]	[9.7%]					[7.6%]	[8.3%]				

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業等の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリスタートしています。

4Q | 通期 業績 : イメージング

(単位 : 億円)

売上高	4Q						通期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
コンシューマーイメージング	460	535	75	+16.2%	38	+8.1%	2,190	2,669	479	+21.9%	171	+7.8%
プロフェッショナルイメージング	272	331	59	+21.7%	40	+14.8%	1,144	1,434	290	+25.4%	171	+15.0%
合計	732	866	134	+18.2%	78	+10.6%	3,334	4,103	769	+23.1%	342	+10.3%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q						通期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
イメージング	23 [3.1%]	102 [11.7%]	79	4.5倍	71	4.1倍	370 [11.1%]	729 [17.8%]	359	+97.1%	220	+59.5%

営業利益増減分析(2023年3月期 実績 対前年実績)

(単位: 億円)

	通期		対前年度		為替	原材料価格	一時費用	中国 ロックダウン	オペレー ション等 ^{※1}
	2022年 3月期	2023年 3月期							
ヘルスケア	1,005	1,005	0	0.0%	194	-18	16	-11	-181
※5 マテリアルズ	684	677	-7	-1.0%	176	-134	116	-6	-159
ビジネスイノベーション	579	695	116	+20.0%	-96	-	42	-8	178
イメージング	370	729	359	+97.0%	139	-18	36	-15	217
全社/連結調整	-341	-375	-34	-	-7	-	12	-	-39
合計	2,297	2,731	434	+18.9%	※2 406	※3 -170	※4 222	-40	16

※1 半導体需給逼迫に伴う部材価格及び物流コストの高騰影響も含む

※2: 為替レート

	2022年 3月期	2023年 3月期
米ドル	113円	136円
ユーロ	131円	141円

※3: 原材料別(半導体影響は除く)

	通期
銀	-8
アルミ	-51
他(燃料等)	-111
合計	-170

※4: 一時費用明細

	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
ヘルスケア	87	71	16
新規買収会社(CDMO)	-	58	-58
新規買収会社(メディカル)	31	-	31
医薬品	46	-	46
その他	10	13	-3
マテリアルズ	102	-14	116
グラフィック/インクジェット等	102	-14	116
ビジネスイノベーション	136	94	42
体質強化費用	59	56	3
新ブランド移行費用	77	38	39
イメージング	33	-3	36
体質強化費用等	33	-3	36
全社	12	-	12
合計	370	148	222

※5 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業等の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 35

営業利益増減分析(2023年3月期 実績 対前回業績予想)

(単位:億円)

	2023年3月期(通期)							
	前回予想 (2023/2/8)	実績	対前回予想		為替	原材料価格	一時費用	オペレー ^{※1} ション等
ヘルスケア	1,080	1,005	-75	-6.9%	-3	1	-7	-66
マテリアルズ	630	677	47	+7.5%	9	3	20	15
ビジネスイノベーション	630	695	65	+10.3%	-	-	31	34
イメージング	650	729	79	+12.2%	-3	1	9	72
全社/連結調整	-390	-375	15	-	-	-	-	15
合計	2,600	2,731	131	+5.0%	※2 3	※3 5	※4 53	70

※1 半導体需給逼迫に伴う部材価格及び物流コストの高騰影響も含む

※2: 為替レート

	前回予想 (2023/2/8)	2023年 3月期
米ドル	135円	136円
ユーロ	141円	141円

※3: 原材料別(半導体影響は除く)

	通期
銀	+3
アルミ	+3
他(燃料等)	-1
合計	+5

※4: 一時費用明細

(単位:億円)

	2023年 3月期(前回予想)	2023年 3月期	差異
ヘルスケア	64	71	-7
新規買収会社(CDMO)	48	58	-10
その他	16	13	3
マテリアルズ	6	-14	20
グラフィック/インクジェット等	6	-14	20
ビジネスイノベーション	125	94	31
体質強化費用	90	56	34
新ブランド移行費用	35	38	-3
イメージング	6	-3	9
体質強化費用等	6	-3	9
全社	-	-	-
合計	201	148	53

営業利益増減分析(2024年3月期 業績予想 対前年実績)

		通期		(単位: 億円)					
		2023年 3月期	2024年 3月期	対前年度		為替	原材料価格	一時費用	オペレー ション等 ^{※1}
※5	ヘルスケア	1,005	1,160	155	+15.4%	3	-10	46	116
	マテリアルズ	677	630	-47	-7.0%	-5	10	-59	7
	ビジネスイノベーション	695	750	55	+7.9%	-	-10	94	-29
	イメージング	729	750	21	+2.9%	7	-15	-23	52
	全社/連結調整	-375	-390	-15	-	-	-	-	-15
	合計	2,731	2,900	169	+6.2%	※2 5	※3 -25	※4 58	131

※1 半導体需給逼迫に伴う部材価格及び物流コストの高騰影響も含む

※2: 為替レート

	2023年 3月期	2024年 3月期
米ドル	136円	135円
ユーロ	141円	145円

※3: 原材料別(半導体影響は除く)

	通期
銀	-20
アルミ	+20
他(燃料等)	-25
合計	-25

※4: 一時費用明細

		2023年 3月期		2024年 3月期予想		差異
ヘルスケア		71	25	46		
	新規買収会社(CDMO)	58	-	58		
	その他	13	25	-12		
マテリアルズ		-14	45	-59		
	グラフィックインクジェット等	-14	45	-59		
ビジネスイノベーション		94	-	94		
	体質強化費用	56	-	56		
	新ブランド移行費用	38	-	38		
イメージング		-3	20	-23		
	体質強化費用等	-3	20	-23		
全社		-	-	-		
合計		148	90	58		

※5 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高・営業利益の金額を「マテリアルズ」セグメントから「ヘルスケア」セグメントに組み替えて表示しています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 37

2024年3月期 通期連結業績予想

事業別売上高

(単位:億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	対前年度	
ヘルスケア	9,179	9,700	521	+5.7%
※ メディカルシステム	6,111	6,500	389	+6.4%
バイオCDMO	1,942	1,950	8	+0.4%
LSソリューション	1,126	1,250	124	+11.0%
マテリアルズ	6,927	7,150	223	+3.2%
電子材料	1,806	2,000	194	+10.7%
ディスプレイ材料	701	750	49	+6.9%
他高機能材料	1,000	950	-50	-5.0%
グラフィックコミュニケーション	3,420	3,450	30	+0.9%
ビジネスイノベーション	8,381	8,450	69	+0.8%
オフィスソリューション	5,555	5,550	-5	-0.1%
ビジネスソリューション	2,826	2,900	74	+2.6%
イメージング	4,103	4,200	97	+2.4%
コンシューマーイメージング	2,669	2,700	31	+1.2%
プロフェッショナルイメージング	1,434	1,500	66	+4.6%
合計	28,590	29,500	910	+3.2%
為替				
米ドル	136円	135円	1円高	
ユーロ	141円	145円	4円安	

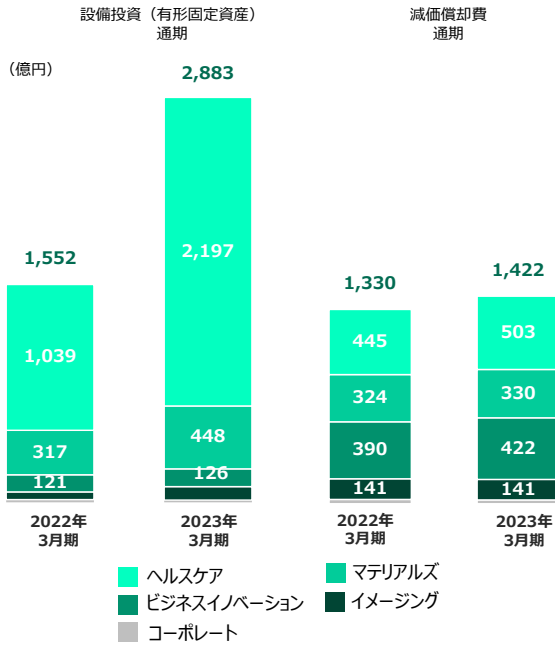
※ 2024年3月期より非破壊検査事業の売上高の金額を「マテリアルズ」セグメントの「他高機能材料」から「ヘルスケア」のセグメントの「メディカルシステム」に組み替えて表示しています。

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

	2022年3月期		2023年3月期		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	39.3%	9,919	35.9%	10,263	344	+3.5%
米州	20.7%	5,224	23.0%	6,569	1,345	+25.8%
欧州	13.4%	3,374	15.1%	4,304	930	+27.5%
内、中国	13.4%	3,390	12.8%	3,687	297	+8.8%
アジア他	26.6%	6,741	26.0%	7,454	713	+10.6%
海外	60.7%	15,339	64.1%	18,327	2,988	+19.5%
合計	100.0%	25,258	100.0%	28,590	3,332	+13.2%

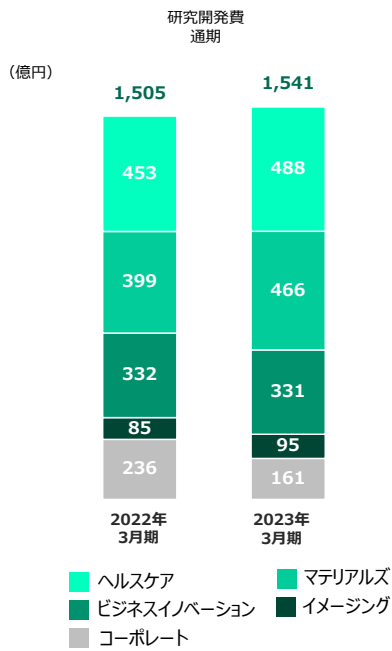
設備投資 | 減価償却費



(単位: 億円)

年度	4Q		通期		
	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 (予想)
ヘルスケア	397	755	1,039	2,197	3,850
マテリアルズ	124	195	317	448	680
ビジネスイノベーション	32	47	121	126	120
イメージング	18	21	55	96	120
コーポレート	10	7	20	16	30
設備投資 (有形固定資産)	581	1,025	1,552	2,883	4,800
ヘルスケア	39	77	113	170	150
マテリアルズ	25	14	68	63	60
ビジネスイノベーション	119	124	314	479	280
イメージング	17	16	54	47	50
コーポレート	21	6	39	32	60
設備投資 (ソフト、レンタル資産他)	221	237	588	791	600
ヘルスケア	117	128	445	503	560
マテリアルズ	93	81	324	330	350
ビジネスイノベーション	101	105	390	422	420
イメージング	34	34	141	141	150
コーポレート	8	7	30	26	30
減価償却費	353	355	1,330	1,422	1,510

研究開発費 | 販売費及び一般管理費



(単位：億円)

年度	4Q		通期		
	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 (予想)
ヘルスケア	119	131	453	488	
マテリアルズ	91	113	399	466	
ビジネスイノベーション	80	84	332	331	
イメージング	24	24	85	95	
コーポレート	72	40	236	161	
研究開発費	386	392	1,505	1,541	1,650
<売上高比>	5.8%	5.1%	6.0%	5.4%	5.6%
販売費及び一般管理費	1,669	1,864	6,530	7,107	
<売上高比>	25.1%	24.4%	25.8%	24.8%	

為替 | 原材料価格 | 人員

為替

(単位：円)

	2022年3月期					2023年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	109	111	114	116	113	130	139	141	132	136
ユーロ	132	130	130	130	131	138	139	144	142	141

為替感応度 1円の変動による影響 (年間)

	売上高	営業利益
米ドル (1円あたり)	50億円	6億円
ユーロ (1円あたり)	15億円	8億円

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2022年3月期					2023年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	93	86	86	88	89	95	86	94	97	93

人員

(単位：人)

	2021.9末	2021.12末	2022.3末	2022.6末	2022.9末	2022.12末	2023.3末
連結	75,007	74,842	75,474	75,341	75,090	74,491	73,878

パイプライン (2023年5月10日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬	経口	日本	Ph III
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
			日本	Ph II
	欧州		Ph II	
	日本		Ph II	
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬			
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I

参考情報

- **富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **富士フイルムホールディングス 統合報告書2022**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>
- **IR資料室**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>
- **富士フイルム事業概要**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/business-overview.html>
- **グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」**
<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フイルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拓けるチカラになるために。

富士フイルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>